

浜田文庫の紹介

トップページでご紹介したデイケア棟の食堂集会室に、浜田文庫が設けられました。

東京、上野で精神科診療所を開業していた浜田晋(すすむ)先生の蔵書を譲っていただいたものです。

一昨年12月に浜田先生が亡くなられた後、残された本が散在してしまうのを惜しまれた方からの相談を受けた当センター院長が、一般書を中心に蔵書の一部を当院に寄贈してもらいました。



浜田先生は、大学病院勤務などを経た後の昭和49年、東京の下町に精神科の診療所を開業しました。当時はまだ、精神科の診療所は経営的に成り立たないといわれた時代でしたが、町中での精神障害の治療の必要性を強く感じての決断だったようです。「人間科ですから」と先生は、病を持っている人々に寄り添い、患者さまが生活しながら治療を続けられる環境づくりに奔走されました。浜田文庫には、そんな先生のお人柄が偲ばれる本がたくさんあります。本棚には小説、詩集、随筆、対談集など様々なジャンルの本が1,000冊ほど並び、病院利用者の方に、閲覧可能となっています。

外来のご案内

外来診療表

H24.4.1~

	月	火	水	木	金
初診	吉本(隆)	富永	柿田	長澤	松田
再診	長澤 松田 富永	樋掛 柿田 吉本(隆)	長澤 松田	樋掛 吉本(隆) 富永	週担当医 柿田 吉本(美) 吉田 (第2・4週PM)
児童精神科	吉本(美)		吉本(美) AM初診	岩崎 石川	石川 AM初診

変更となる場合がございます。

職員募集 長野県立こころの医療センター駒ヶ根では 医師・看護師を募集しています!

連絡先 0120-173-314 採用専用 フリーダイヤル 又は ☎026-235-7152(病院機構本部職員課) ☓saiyou@pref-nagano-hosp.jp

■ 医師…随時募集

■ 看護師(平成24年度 採用試験日程)

- ・第1回 6月23日(土) 会場:長野市
- ・第2回 8月25日(土) 会場:各県立病院 9月1日(土) 会場:東京都 9月2日(日) 会場:名古屋市
- ・第3回 11月3日(土) 会場:松本市・長野市
- ・第4回 12月15日(土) 会場:長野市
- ・第5回 3月9日(土) 会場:長野市

◎試験内容…適正検査及び個別面接 ◎募集期間…随時受付中

医学生・看護学生等の病院見学のご希望は 病院(事務部総務課長:原山)へ 直接ご連絡ください。

お問い合わせ先 ☎0265-83-3181(代)

地域の明日を医療で支える 地方独立行政法人 長野県立病院機構

長野県立こころの医療センター駒ヶ根

〒399-4101 長野県駒ヶ根市下平2901
TEL 0265-83-3181(代表) FAX 0265-83-4158
☓komagane@pref-nagano-hosp.jp
http://www.pref-nagano-hosp.jp/komahosp/homepage

こころ 駒ヶ根 検索



Mental Wellness Center-Komagane

駒通信

第3号

2012.4.27
発行

内容 ▶▶▶ * 新年度のごあいさつ * A1病棟(児童精神科病棟)の紹介
* デイケア棟・体育館の竣工式及び改築記念講演会開催のお知らせ

新年度のごあいさつ



院長 樋掛 忠彦

ようやく駐車場の整備がおわり、これで病院改築工事はすべてが完了しました。まさに「サクラサク」です。関係者の皆様のご尽力ご協力に深く感謝します。病院改築は前々院長からの悲願でしたので、感慨もひとしおです。しかし、あえて「こころの医療センター駒ヶ根」の目標の一つに「つくり続ける病院」を加えたいと考えます。なぜなら時代の変化に対応した病院として、これからも変わり続ける必要があるからです。

たとえば初めて受診される患者さまやデイケアの参加希望者がとても増えています。地域連携室による初診予約制やデイケア棟の改築をすすめてきましたが、新年度からも質の高い医療を提供するよう努力してまいります。精神疾患が「5疾病」に加えられましたが、各論の検討はまだこれからの段階です。認知症だけでなくうつ病についても、かかりつけ医と精神科医の双方向的な連携が求められています。県内各地の身近なところで、適切な医療を受けられる体制を整えなければなりません。病院間の連携もますます重要になるでしょう。電子カルテの活用についての研究も進めなくてはなりません。

精神科救急や専門医療といった「高い」目標を実現するだけでなく、患者さまや家族の立場を思いやった包括的・継続的な医療とケアを提供できるよう地道な努力を続けてゆくつもりです。そのためにはわれわれ職員の研修や自己研さんも欠かせません。この一年のうちに連絡会議や研修会の開催が増えましたが、体育館も完成しましたので講演会などの情報発信をさらに行ってゆきます。

デイケア棟・体育館の竣工式及び改築記念講演会を開催いたします

平成23年12月にデイケア棟が、本年2月には体育館がオープンしました。オープンを記念して5月に竣工式及び改築記念講演会を開催いたします。講演会の講師として、新デイケア棟内に展示している詩画の作者で駒ヶ根市在住の加島祥造先生をお迎えします。



竣工式

平成24年5月19日(土)

竣工式 13:00
13:30

記念講演会 14:00
16:00

【会場】こころの医療センター駒ヶ根 体育館

【講演会テーマ】「こころの自由とバランス」

【講師】加島 祥造 先生(かじま・しょうぞう) …… タオイスト

1923年、東京・神田に生まれる。早稲田大学英文科卒業。信州大学、横浜国立大学、青山女子短期大学で主にアメリカ文学を教える。その間、詩作、翻訳、著作等で活動し、50代より書画を始める。1990年駒ヶ根の地に住み、タオイストとして老子の哲理のもと暮らす。自作詩を画中に書き込んだ墨彩画を描き、現代の文人画を目指す。これまでに個展60回を数える。2011年には駒ヶ根市立博物館にて墨彩画展を開く。

著書:詩集『帰谷』『離思』『倒影集』、画文集『大きな谷の歌』『心よ、ここに来ないか』『美のエナジー』の他、『伊那谷の老子』『ほっとする老子のことは』『私のタオ』など多数。中でも『求めない』は46万冊、『タオ 老子』は13万冊というベストセラーとなっている。



「お、いま生きずして」
加島 祥造 先生 詩画

今回は、当センターで平成23年1月に開設されました、『A1病棟』にスポットを当て、病棟内部や病棟を支えるスタッフについて紹介いたします。

A1病棟は児童精神科病棟として、こころの問題を抱え、外来での通院治療だけでは対応が難しい中学3年生以下を入院対象にしています。保護室2床を含め、15床で構成されており、それぞれが完全個室です。

各々の子どもたちは、院内学級に通いながら、心理療法、作業療法、集団療法に参加します。また、月に一度は病棟全体で季節を感じる様々な行事にも取り組んでいます。行事によっては、ご家族の方にも参加していただき、子どもたちと一緒に楽しむでもらうよう工夫しています。

このように、小・中学生で入院が必要なケースにおいては、投薬や心理療法による治療だけでなく、スタッフとの一対一の関わりから集団活動へと発展させ、日々の生活全体を治療的な環境に整えてケアを展開しています。



病棟 年間行事			
1月 もちつき大会	2月 節分	3月 ひなまつり	4月 花見ハイク
5月 端午の節句	6月 運動系の大会 (卓球・バドミントン)	7月 七夕	8月 花火大会
9月 遠足	10月 運動会	11月 プラネタリウム	12月 クリスマス会

病棟での1日のスケジュール

起床から消灯までの、規則正しい生活を身につけてもらいながら、生活を組み立てています。病棟内に併設された小学校・中学校の院内学級には、主治医の許可のもと、各々の子どもたちが状態に合わせた形で登校します。

あくまでも治療優先のため、授業中に心理などのプログラムが入ってくるなど、病状によって出る授業数も一人ひとり異なっています。

授業の他には、子どもたちに合わせて作業活動や、グループ活動、児童会、体育館での運動等を実施しています。また、毎週グループ活動として、室内ゲームや料理のほか、広場に行き身体を動かすなど、子どもたち同士の関係を通じて成長を促すようなプログラムも行っています。



クリスマス会



プレイグループの活動

病棟内の活動

- **プレイグループ** グループワークです。小グループで「遊び」を行ったり、グループ内で集団との関係を観察したり、関係を築いたりする練習をします。きちっとした枠組みの中でスタッフが関わっています。
- **児童会** 入院生活における様々なことや病棟内の行事について話し合いを行い、感情的にならず意見を伝えたり、大人に自分の意見を認められる経験をしながら、会としての結論を出していく経験をします。
- **運動** 毎日体育館に行き、30分間の軽運動などを行います。
- **リラクゼーション** 眠る前のリラックスタイムとして、ハンドマッサージ・足浴などを行います。



A1病棟(児童精神科病棟)の紹介



院内学級の先生方のご紹介

A1病棟には、子どもたちの学習機会確保のために設置された院内学級があります。地域の小・中学校から派遣された先生方が常駐して授業を行っています。今回、2名の先生方に抱負などを話ってきました。



千賀 けい子先生

院内学級で小学生を担当しております千賀けい子と申します(在籍は赤穂東小学校です)。昨年度、県内で初の児童精神科病棟の院内学級として開設され1年が経ちました。治療をしながら学習の機会を確保すること、生活のリズムを作り療養生活に前向きに取り組めるようにすること、出身校への円滑な復学ができるようにすることを目的に医療と連携をとりながら支援を進めています。2年目、さらに子どもたちの困り感によりそいながら、個性に応じた学習支援ができればと思っています。病棟の助けをお借りしながら、子どもたちの笑顔が増えるよう、甚だ微力ではありますが頑張りたいと思います。



下平 哲(さとし)先生

初めまして、中学校院内学級の下平 哲(さとし)です。実は昨年度からお世話になっていますが、昨年度は駒ヶ根東中学校の授業の合間をぬって、院内学級に通っていました。本年度から、院内学級が正式に発足しましたので、院内学級を優先して毎日通っています。今年、生徒一人ひとりの学習にあわせての個別指導や身近な生活の質やスキルを高めるような学習を仕組んでいきたいと考えています。とはいえ、治療を優先し、限られた時間とスペースの中で何ができるのか、試行錯誤の毎日になるかと思えます。病棟のすべてのスタッフの皆さんにいろいろと教えてもらいながら、少しでも生徒の支えになれるようがんばります。よろしくお願ひします。

病棟を支える多職種チーム

医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士などの多職種から成るチームが、各々の専門性を活かしてチームでケアを支えています。それぞれ違った角度から子どもを観察・把握するとともに、情報を共有する中で個性を伸ばしながら集団生活に適應できるよう、治療の方向性を日々検討しています。



院内学級

A1病棟は、「治療の場」であるとともに「子どもを育てる場」としての機能があります。病棟内での学習や行事を通じて、子どもたちの成長を手助けする役割を担っています。



精神看護の目指すところは…

副院長兼看護部長 篠原 睦美



東日本大震災で大きな被害を受けた東北では、やむを得ず閉鎖を決めた精神科病院もあると聞きました。患者さまを支え、職場復帰を望みながら、こころのケアに力を注ぎ、復興活動に励まれた方たちの残念な気持ちが感じられます。

当センターは幸いにも地震対策も施された新病院になりました。外観からは病院とは思えないような快適な施設に生まれ変わり、同時に電子カルテという新たな医療提供の形を選択したところ。今までなかなか進まなかった予約診療も本格的に始まりましたが、丁寧な説明と関わりで、患者さまの理解も得られており、新病院の運営は、まずまず軌道に乗っているとみています。建物や働く人が替わっても、脈々と受け継がれてきた当センターの看護の精神が、次世代に引き継がれていく様子を、期待と喜びを感じながら見つめています。

最近、チーム医療が重視され、早期治療の段階から地域生活の支援を多職種チームで計画、実施、評価することに力点が置かれる時代になっています。個々の患者さまの情報を医療関係者が共有し、精神疾患を原因とした地域生活のしづらさに悩んでいる患者さまを、どう理解し、どのように個々のニーズに対応して支援していくかが課題になっています。病院職員が、これらの課題に向き合い、患者さまと一緒に考え、わかりやすく説明し、理解を求めることで、患者さまの医療への参加が促されていくでしょう。

特に、患者さまの生活場面に關する多くの情報をもつ看護職員は、自身の役割の大きさを自覚し、自らの人間性を磨き続けることが大切です。看護職員の皆さんには人が人によって傷つき、人によって癒され、社会生活に戻れるのだという循環の流れを氣遣えるような、スタッフとしての自律性を育て、看護にまい進してほしいと思います。

そして、何よりも心身ともに健康で、自らのメンタルヘルスを維持しながら、時代の変化や医療技術の革新に対応できる、柔軟で力強い精神看護を共に目指したいと考えています。